



AA 通信

2009年(平成21年)1月1日 第12号

東京都渋谷区代々木2丁目23番1号
ニューステイメナー865号室 (〒151-0053)
Tel 03-6240-2300 Fax 03-6240-2301
E-mail : info@asset-adv.co.jp
ホームページ : <http://www.asset-adv.co.jp/>



新春のお慶びを申し上げます。

旧年中は格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。
本年も変わらぬご愛顧を賜りますようお願い申し上げます。

平成21年 元旦

通信トピックス

～ 税制改正大綱と、アドバイザーの本質 ～

政治が迷走する中、昨年12月12日に自民党の税制改正大綱が発表されました。最大600万円の住宅ローン減税をはじめ、景気対策に目を向けた(と与党が思う…)内容でした。タバコ税に関しては二転三転し迷走を露呈する形となり、一昨年の大綱に載せられた、相続税の抜本的な見直しも先送りとなりました。こうした中で、一昨年の大綱に載り、中小企業の事業承継に関する、「取引相場のない株式等に係る相続税の納税猶予制度」については、昨年10月1日に施行された「中小企業における経営の承継の円滑化に関する法律」に合せる形で、その取扱いが明らかになりました。税制の詳細は、改めて載せることにします。

この時期になると、発表された新しい税制に対して、専門家等から「使い易い」「使い難い」といったコメントがなされます。これは、誰にとって「使い易い」「使い難い」という意味なのでしょうか？クライアント(お客様)にとってでしょうか？そうでない事が多いようです。お客様の立場から考えれば、「使い易いから使う」「使い難いから使わない」という発想は本末転倒なことです。特に、相続に関する税制であればなお更のことです。財産を承継したい。子ども達に財産を守って貰いたい。こうした気持ちを具現化する事がお客様の希望です。その希望を叶えるための手段として、新しい税制が有効な手段であれば、例えそれが使い難い税制であっても、それを使いこなす努力をする。これがアドバイザーの本質だと考えています。「お客様の思いを具現化する。」この気持ちを大切に、今年もアドバイスをして参りたいと思います。

日常コラム

～ 映画、『レッドクリフ』を観てきました。 ～

赤壁(=レッドクリフ)は中国長江の中流にあり、三国志の中でも、“魏”“呉”“蜀”の三国が鼎立(ていりつ=鼎<かなえ=中国の金属製の器>の足のように、三者が互いに対立すること。)するまでの過程で、特に重要な戦いと言われる「赤壁の戦い」が行われた場所です。

映画『レッドクリフ』は、この「赤壁の戦い」を映画化したものです。以前から三国志が大好きな方に、「三国志は良いよ、勉強した方が良いよ。」と言われ、俄かに勉強し始めた頃、この映画の話題を聞き、大変楽しみにしていました。

「赤壁の戦い」が三国志の中で重要と言われる理由は、荊州(けいしゅう)で劉備軍を破り、一気に孫権軍に攻め入ろうとしていた「魏」の曹操は、この戦いに敗れて中国全土統一の夢が果たせなくなり、勝った“呉”の孫権は、君主としての権力を磐石のものとし、また、荊州で大敗し、他国に遅れながらも一国を立ち上げようとする劉備にとっては、“蜀”を建国する大きな一歩となります。そして、

この戦いによって、中国に三国時代が到来するからです。

この「赤壁の戦い」の中でも、広大な長江を挟んだ水軍戦は、そのスケールから三国志最大の見せ場であり、それ故に映画化する事は大変難しいと言われていました。これを20年近く構想を温めてきた中国のジョン・ウー(呉宇森)監督が映画化したのです。

映画は始まるとすぐに、劉備軍が10万もの民と共に荊州から撤退する中、曹操軍に攻め込まれる場面になります。一般的に三国志では、曹操が悪玉、劉備が善玉として捉えられますので、いきなり善玉の危機です。瞬間に映画に引き込まれました。危機の中で、関羽、張飛や、阿斗を救う趙雲の活躍シーンが登場します。北京五輪の開会式で、中国の背景にある人口の多さを感じた方も多いと思いますが、この映画も同じでした。画面一杯に人が出てきます。この中で繰り広げられる戦いのシーンに、繊細な特殊効果が加えられることでメリハリがついて、テンポ良く観る側を画面に引き付けます。(後で知りましたが、現役の

人民軍兵士1000人をエキストラで投入するという、国のバックアップ<異例>があったそうです。)本で読んだり、テレビを見たりしても、どうしても自身の未熟な空想では描けなかった、中国の広大さや、何万もの軍勢、剣・弓・馬・槍など武術の奮戦、権力を象徴した建物や装飾品、これらが絶えず映し出され、三国志の迫力を満喫してくる事が出来ました。ご覧になっていない方は、是非ご覧下さい。

さて、この『レッドクリフ』、実は2部作になっており、クライマックスは第2部に持ち越されています。今年の春にはこの第2部がロードショーとなります。

金城武が演じる諸葛孔明が、10万本の矢を集める場面や、圧倒的に不利な状況から、2000隻の大船団を沈め、曹操軍を打ち破る場面等、有名かつ大切な場面が持ち越されています。これらの場面が、どのように画面に映し出されるか、今からとても楽しみです。

また、今年2月には、劉備軍の五虎大将軍の一人、劉備、関羽、張飛亡き後も“蜀”を守り続けた趙雲を主人公とした、ずばり『三国志』というタイトルの映画も公開されます。この映画も含めて、今年には三国志を堪能しに映画館へ足を運ばれては如何でしょうか。

お知らせ

(株)アセット・アドバイザーでは、『毎月第三土曜日に無料相談会』を開催しています。「土地建物」や「相続対策」でお困りの方、是非、ご活用下さい。次回は1月17日。時間は午前10時から午後3時まで、ご予約のうえお越し下さい。